

1. 出征兵士を宇品港で見送る



出征兵士を、白神社の所で見送ることが多かったが、時には宇品港で見送ることもあった。傷病兵や遺骨を出迎える際には、胸が痛んだという。(写真は昭和 12 年)

2. 三滝山麓に校外園開設



食糧事情が厳しくなり、校内の花壇にも「時ナシ大根」「人参」「赤丸二十日大根」などが植えられた。昭和15年三滝山麓に校外園を開設、次いで雑魚場町、南竹屋町にも農園が造られた。立派な大根を収穫。

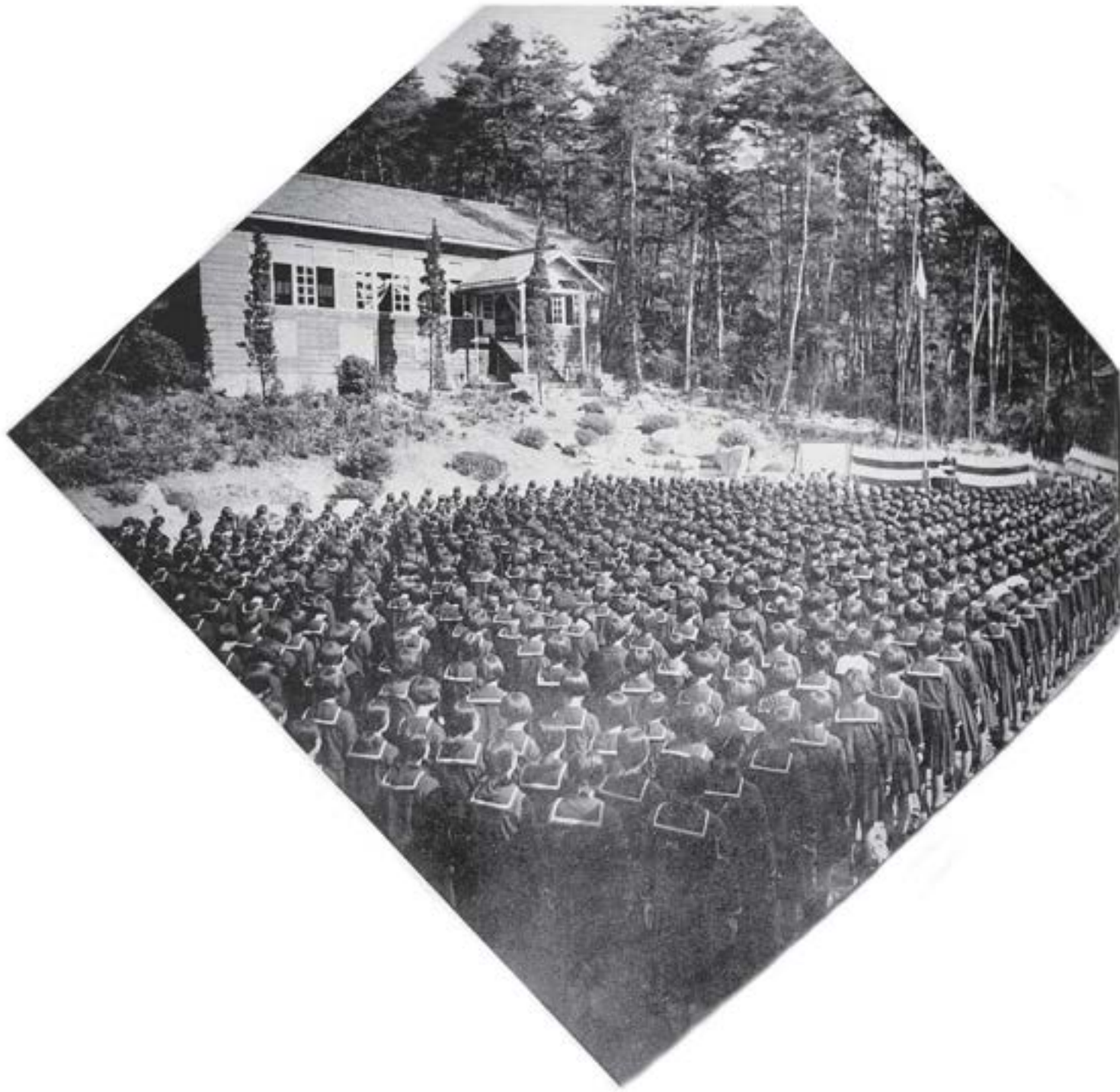
3. 大詔奉戴日に慰問袋



慰問袋作り

興亜奉公日（毎月1日と15日）、後に大詔奉戴日（毎月8日）には、慰問文や慰問袋を作成した。昭和15年には7月と10月に計150個を第五師団司令部に送っている。慰問袋には軍からの缶詰や、手紙、絵や書道の作品、千人針などを入れた。

4. 修練道場を八木に開設



八木修練道場は昭和 16 年に心身鍛錬の場として開設された。8 月 17 日 5 年生（有朋 36 期生）が修練生活を開始した。修練の場ではあったが、宿泊を伴う唯一の行事として、生徒たちの楽しい思い出となった。戦後、昭和 20 年 12 月まで仮教室として使用された。（写真は 11 月 2 日の落成式）

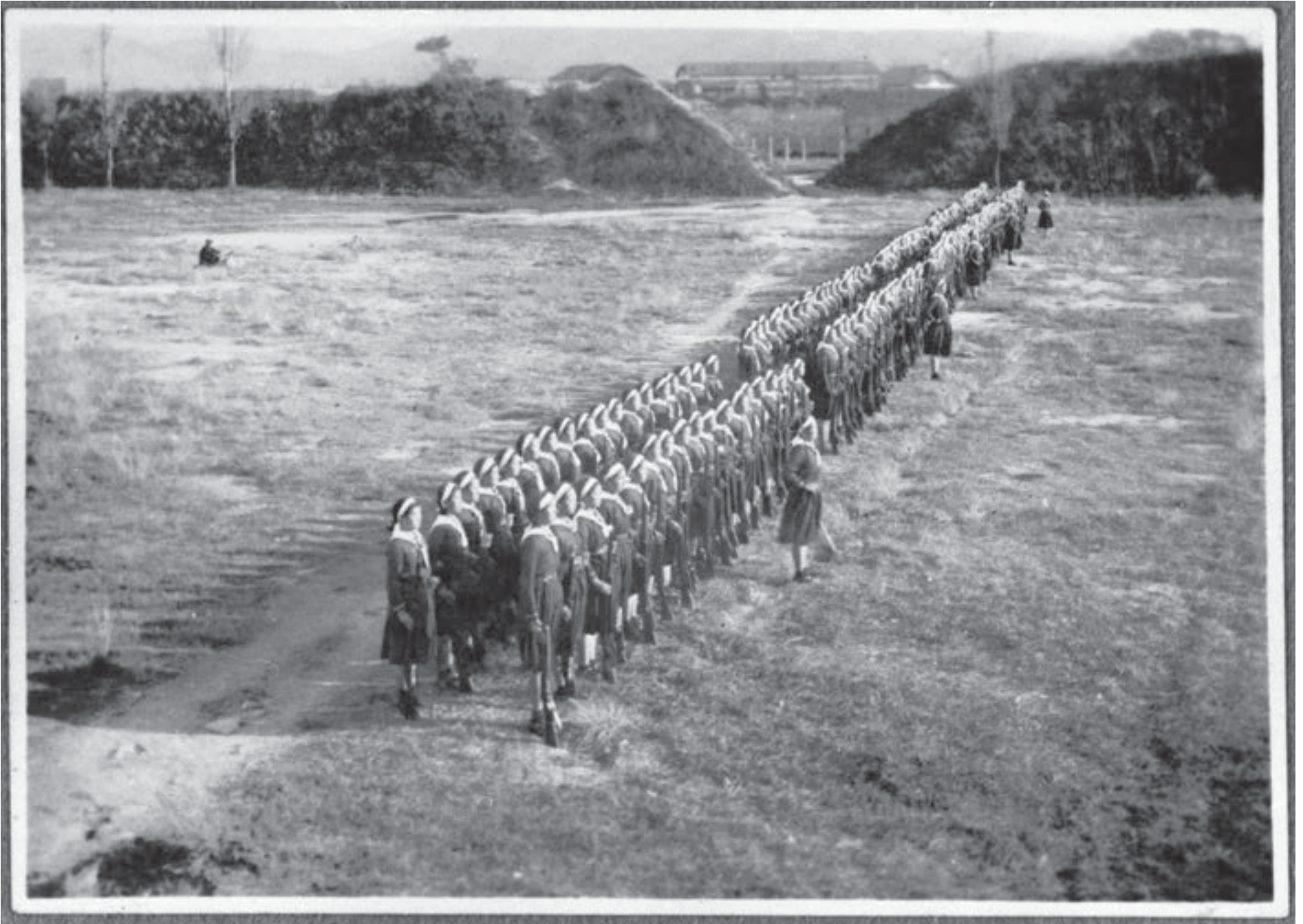
5. 広島県総合運動場で土運び



1941(昭和16)年、グラント作りが完成した。
この日12月8日に太平洋戦争に突入の報をききバンザイをした。

昭和16年12月南観音に総合運動場(体錬場)が完成。市内の中等学校、専門学校、師範学校の生徒・学生が、2年がかりで土砂を運び、盛り土して建設作業にあたった。牡蠣殻などの多い埋め立て地で、土は水分を含み、ずっしり重かった。2年後、体錬場の周囲は芋畑に変えられた。

6. 江波の陸軍射撃場で射撃訓練



資料提供：広島市市民局スポーツ部文化振興課

昭和 16 年以降、団体・学校から依頼を受けて、兵器補給廠が女性の軍事訓練を行っていた。本校では 5 年生が、学校から約 3 km の江波の陸軍射撃場へ木銃をかついで往復し、射撃場では実弾射撃を行った。

7. 兵器廠で勤労奉仕（昭和 17 年）



勤労奉仕作業（兵器支廠） 1942（昭和17）年

兵器廠での作業は、弾薬を入れる袋を縫う、決まった数の炭素棒を容器に詰める（焼夷弾）、大砲の弾を磨く、三八銃の銃身を布で磨く、馬具の手入れなど様々であった。

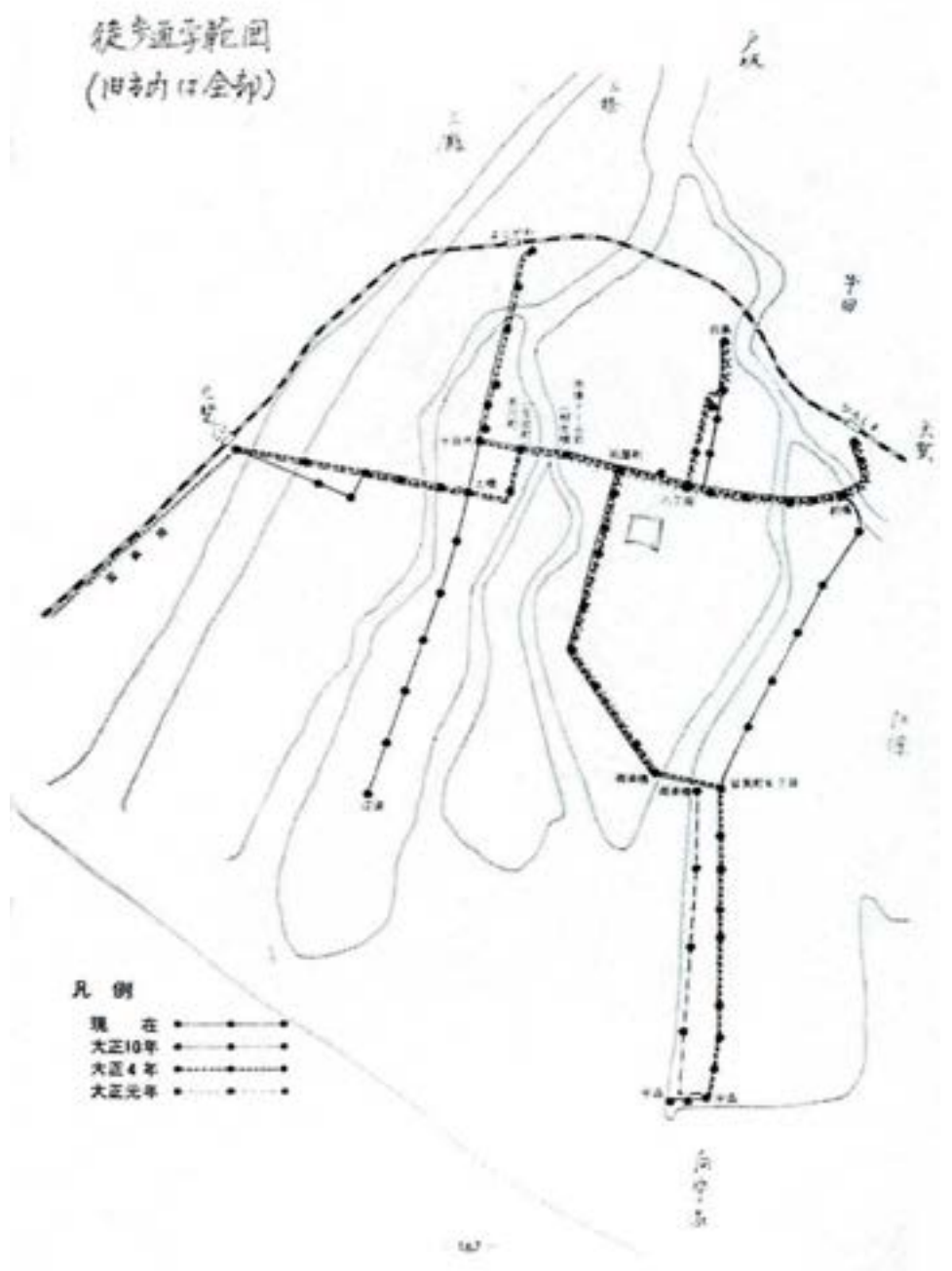
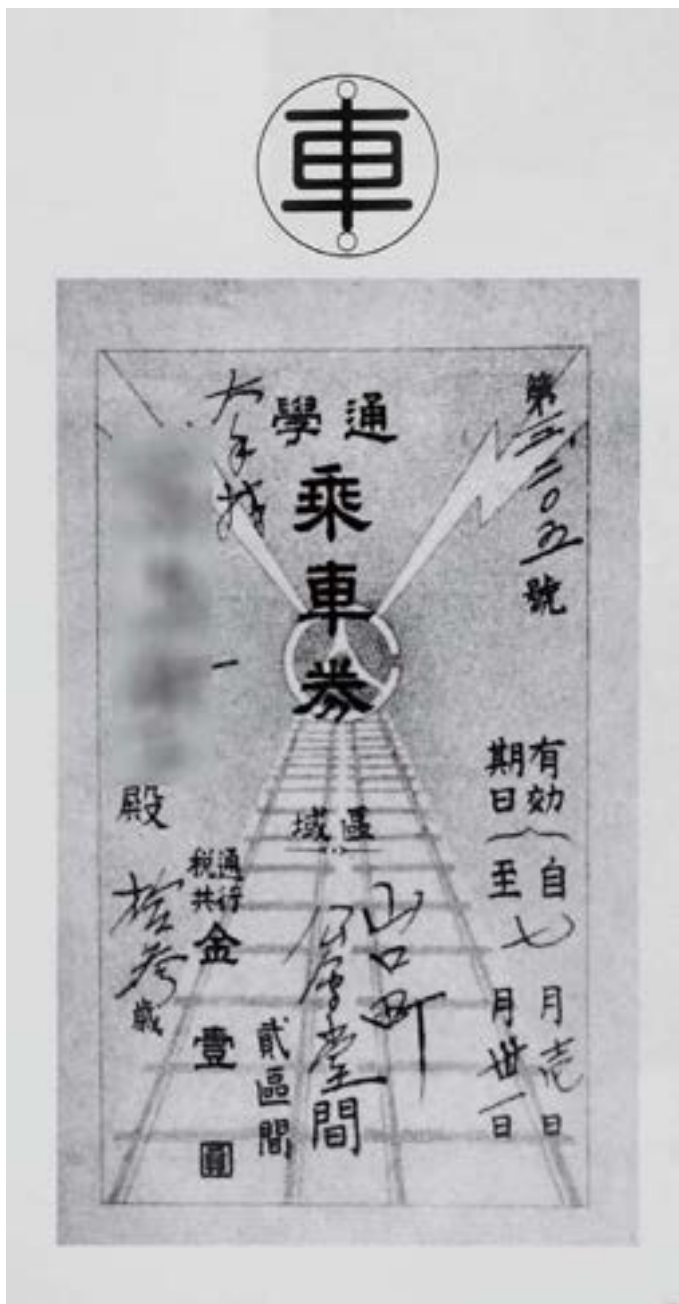
8. 勤労奉仕先で隊列を組み行進



資料提供：広島市市民局スポーツ部文化振興課

昭和 14 年 7 月の広島県下女子中学校勤労報
国隊発会式の後、被服廠で奉仕活動を行っ
たのが、本校の労力奉仕（後の勤労奉仕）
の始まり。奉仕先の正門前に集合し、部署ま
で隊列を組み行進した。軍服の穴かがり、
ボタン釦付け、布運びなどを行った。

9. 戦時下の通学事情



昭和 17 年頃、燃料不足と生徒の体力増強のため、通学距離 4 km 以内の生徒は徒歩通学になった。生徒の安全への配慮もあり、居住地区ごとに歩行隊が編成され、登下校時は集合場所からまとまって歩いた。特別に電車に乗ることを許可された生徒は○車マークを胸につけていた。

10. 女子は戦時救護の訓練



昭和 18 年 6 月、政府は「学徒戦時動員体制
確立要綱」を決定し、軍事教練の徹底、女
子には戦時救護の訓練をすることとした。8 月
26 日から 4 日間、校内で救急看護の訓練が
あった。三角巾の使用法・包帯の巻き方・
止血法・人工呼吸・患者の運び方について
の講話と実習であった。

11. 動員のスタイル（昭和 19 年）



動員のスタイル、下はもんぺ 1944(昭和19年)年

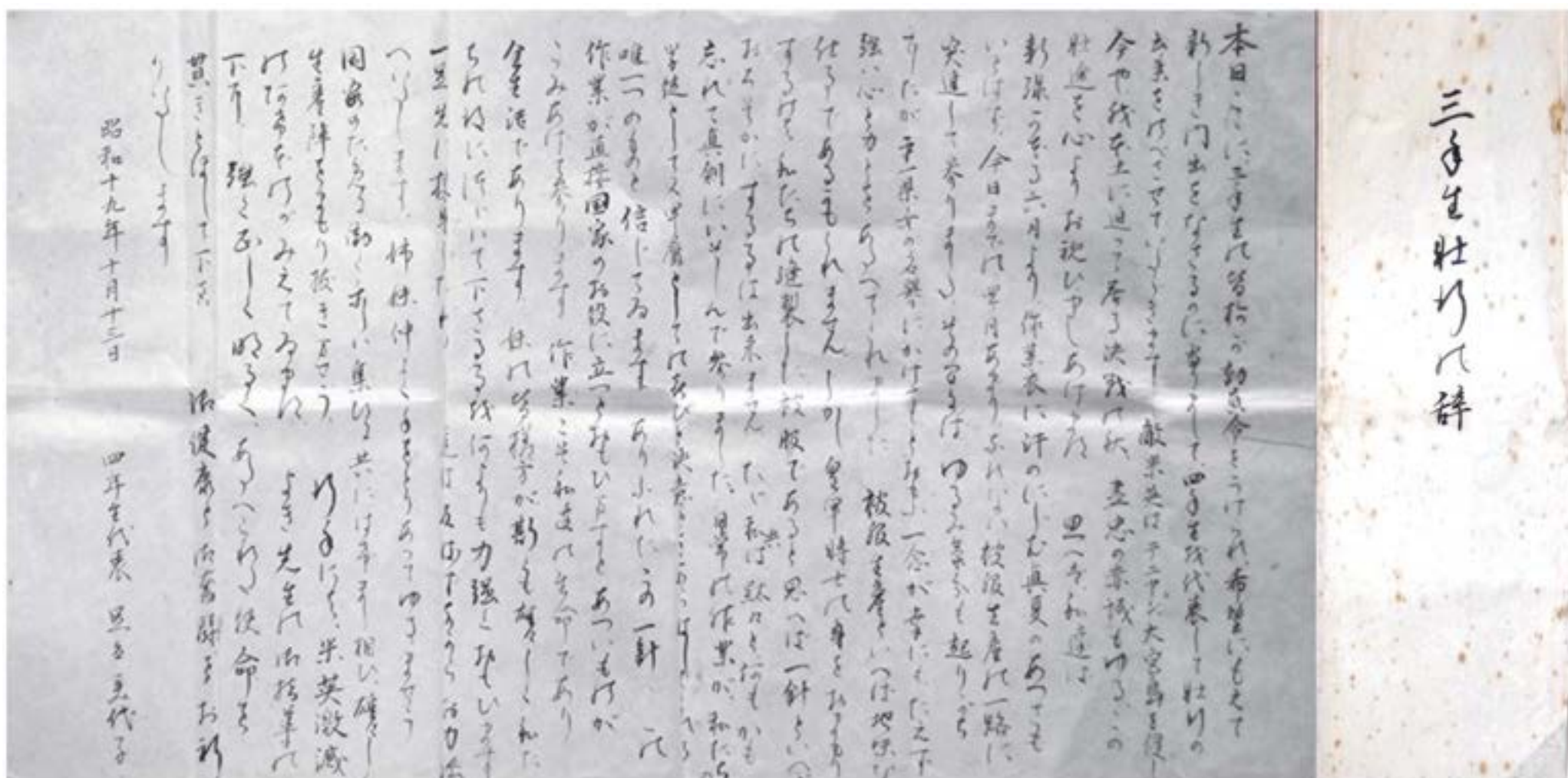
白い鉢巻をきりりと締め、制服の袖には学徒隊のマークをつけ、ネクタイを外した胸元に校章、左胸に学校名と氏名、血液型を記した身元票を付け、モンペを着用した。昭和 16 年頃からは、制服を新調する場合はセーラー服ではなく、へちま襟の上着の新制服となっていた。

12. 海軍 11 航空廠の 5 年生



5 年生（有朋 39 期）は、昭和 19 年 6 月 19 日より海軍第 11 航空廠（広）へ通年動員。仕事は飛行機部品の製作で、適性検査により、研磨や旋盤などの持ち場が決まった。空襲が激しくなり移ったトンネル内の工場は、騒音がひどく油と煙でむせ返るようだった。戦後「作っていたのは紫電改の部品だった」と、聞いた。

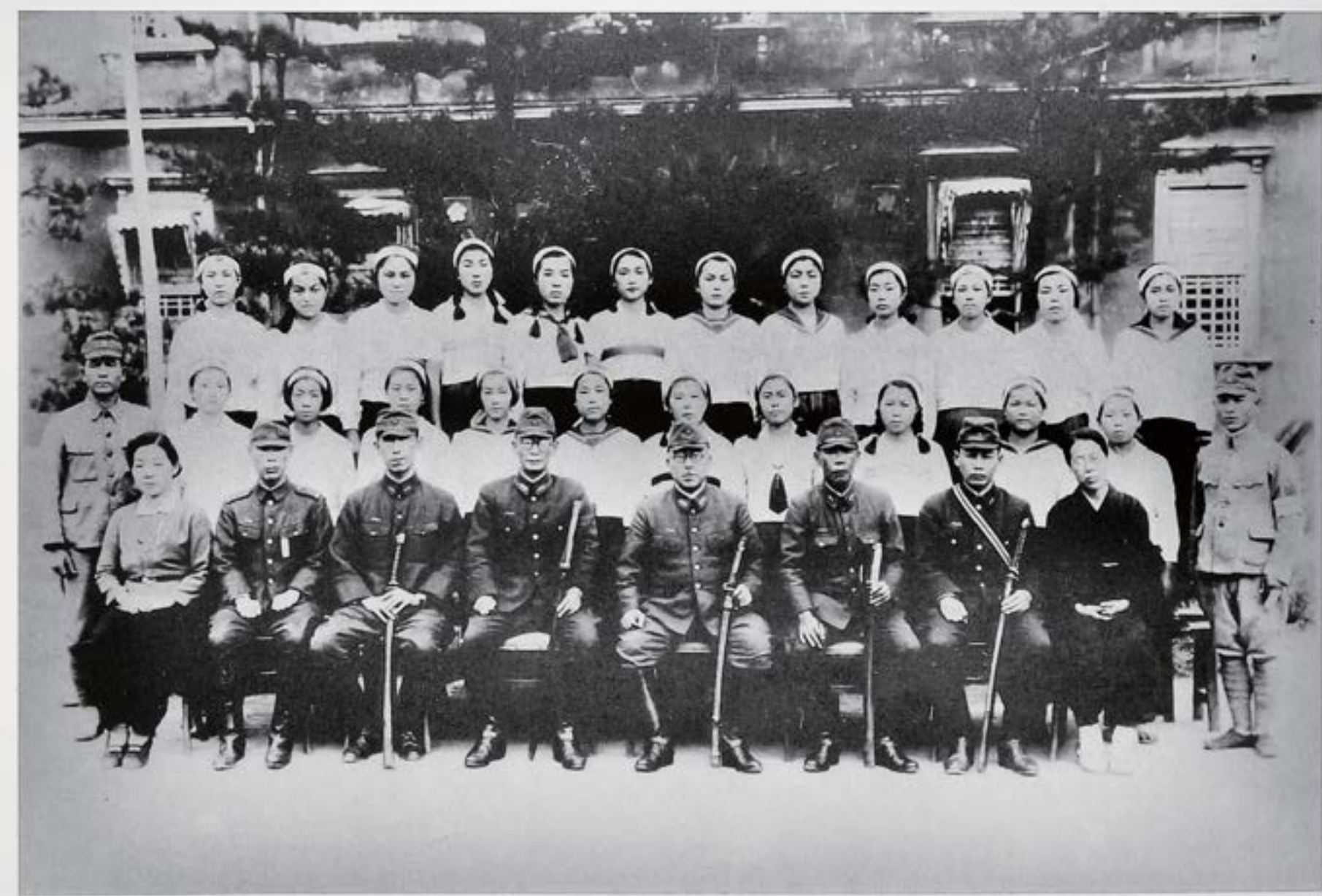
13. 学徒動員「壮行の辞」



学徒動員に出動する際には、校庭に全校生徒が整列して壮行式が行われた。生徒代表の読む「壮行の辞」と、拍手に見送られて行進した。

写真は昭和 19 年 10 月、3 年生（有朋 41.42 期生）の壮行式の際に読まれた「壮行の辞」。

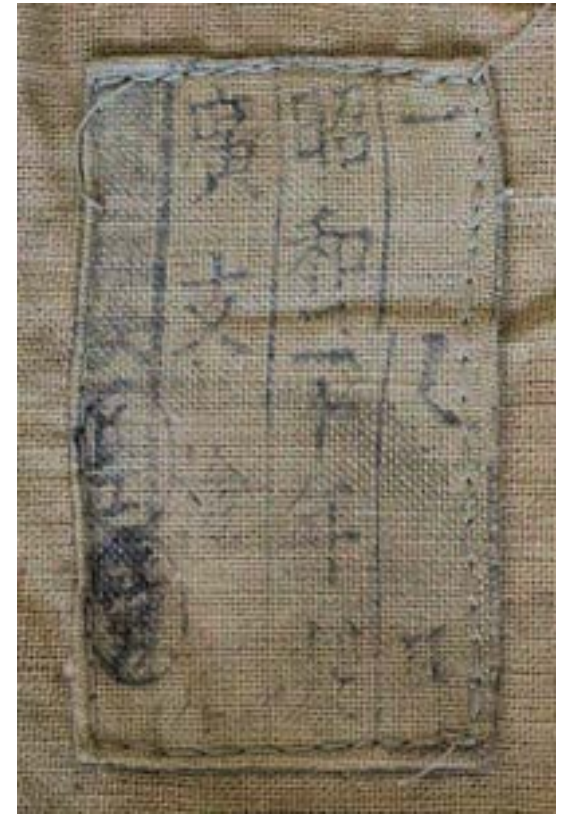
14. 学校報国隊密針^{ミシン}修理



昭和 19 年 9 月から 1 カ月半、被服廠でミシンの修理技術講習会が開かれた。鹿児島、島根など県内外の学校工場から 22 人の女学生が参加した。第一県女からは 5 人が参加。ミシンを分解しては組み立てる毎日だった。

後列左の 3 名と、右端の 1 名、中列右から 2 番目の 1 名、前列右端が第一県女の生徒、先生。

15. 学校工場で野戦蚊帳



南方の戦場で野営に使用する野戦蚊帳（一人用と二人用があった）を縫った。裾が広がった蚊帳は、一人用の場合で裾の周囲が10m、糊のきいた濃い緑の麻製であった。川内村に工場が疎開してからは、特攻隊の鉢巻1日1000枚の裁断も加わった。

16. 昭和 19 年に看護組



昭和 19 年 4 月、4 年生に組替えがあり、5 組には看護婦希望者が 22 名含まれていた。学校工場でミシンを踏んでいたが、卒業前の 2 か月半、作業前の早朝 1 時間、人体の構造や救急処置などを学んだ。4 月、5 月は日赤病院で病棟看護の実習をし、看護婦免状を取得した。割烹着が実習着だった。

17. 学校工場は川内村に疎開



昭和20年春、学校工場は安佐郡川内村公会堂に移転した。川内国民学校の正門前にあり、木造平屋建てでステージのある、教室二つ分くらいの建物だった。現在はJAになっている。7月から寄宿舍の疎開に伴い、川内国民学校の1室を借りて教室とした。そして、戦後も川内国民学校の教室の一部を仮教室とした。

18. 千田町の寮も川内村へ疎開



川内村公会堂から歩いて 10 分足らずの位置に、杉本眼科病院の入院病棟があった。病院は市内に移って病棟が空いており、昭和 20 年 7 月その 2 階を借りて寮とした。その場所には現在民家が建っているが、西側の杉本邸から当時の様子をうかがうことが出来る。同時期に、八木の修練道場も寄宿舍になった。



第一県女の勤労奉仕・学徒動員; 戦時下の女学生の生活記録 Part 1

1	学校全体	Y38期（S14年入学）	Y39期（S15年入学）	Y40期（S16年入学）	Y41・42期（S17年入学）	Y43期(S18年入学）	Y44期(S19年入学)	Y45期(S20年入学)
昭和16年4月～12月	4. 15勤労報国隊結成。7. 21：防空壕土堀開始。8. 17：八木修練道場で修練開始。7・10月校内で部隊用雑巾・下駄鼻緒作成。10. 12：一斉防空演習。12. 7-9：県総合体錬場竣工式に全校参加。	3年生 軍作業庁奉仕：計11日。6. 9 県総合体錬場作業（かなり頻繁にあった）。 4. 23 三滝農園作業。 5. 27 西練兵場での記念式に代表が参加。 軍隊出迎え、見送り 計3回。7	2年生 軍作業庁奉仕：計10日。 4. 16：県総合体錬場作業。 稲刈り：2日（安村、原村）。 10. 31：軍隊出迎え。	1年生 軍作業庁奉仕：計9日。 4. 16 県総合体錬場作業。 軍隊出迎え：計3回。				
昭和17年	毎月8日の大詔奉戴日に護国神社参拝。軍作業庁奉仕作業：計3日。1月10-24寒稽古。2. 27 防空演習。9. 4-5 校内にて軍役奉仕作業。9. 22 防空訓練。11. 19 歩行訓練（高学年30km□、学年26km）。	軍作業庁奉仕：計4日。軍隊出迎え1回 ．．．．． 4年生 軍作業庁奉仕：計13日。稲刈り：計2日（原村）。 10月： 災害地特別勤労奉仕。	軍作業庁奉仕：計4日。．．．．． 3年生 軍作業庁奉仕：計13日。	軍作業庁奉仕：計3日．．．．． 2年生 軍作業庁奉仕：計13日。6. 8：川内村作業。 2kgの砂袋を背に7kmの行軍。	1年生 軍作業庁奉仕：計13日。南竹屋の学校農園で農作業。8. 1-3：梅林水泳訓練。10月：修練道場行き開始。			
昭和18年	3年生以上に英語を課さず、農作業、教練を強化。モンベ着用開始。ネクタイを外し校章は襟元に。学年の「ABCDE」が「いろはにほ」となる。防空演習・救急看護各5回実施。竹槍・木銃訓練を行う。	5年生 東練兵場の畑作り。兵器廠(炭素棒を容器に詰める)、被服廠(傷病兵の衣服・軍靴の修理)、糧秣廠(鯨の乾燥肉袋詰め、缶詰の整理)。遺骨を迎え陸軍墓地へ。9	4年生	3年生 被服廠5日、兵器廠5日、糧秣廠1日、校内軍役作業3日。農作業：計8回。川内村水害で濡れた役場の書類を河原で乾かした。	2年生 サイレンが鳴ると学校守備のため、家が近い生徒は夜中でも登校。上級生と一緒に学校の壕に入る。遠足が10km、20kmの行軍となる。	1年生 勤労奉仕：専売局でたばこの箱詰め。被服廠で戦地で汚れた軍服の洗濯や修理をする。		
昭和19年	4年生・5年生は組替えし、1クラスは看護組に。防空宿直(同じ地域の生徒10名位と男、女先生1名ずつ)あり。警報が出ると、夜間でも生徒は学校に駆け付けた。	1月挺身隊として各所へ動員、3月卒業後も継続。 1 -3月：師範学校の臨時講習で国民学校臨時教員になる道あり。10	5年生 組替え。6. 19：広第11海軍航空廠に通年学徒動員。全員寮生活。月1度1泊の帰宅許可。8時間3交代制。深夜業有。旋盤、研磨など。敬礼・号令などすべて軍隊調。	4年生 看護婦希望者を含む1学級が看護組に。6. 19：被服支廠の工場となった教室(4年生の各教室にミシン配置)に通年学徒動員。9月：各組1名が被服廠で密針修理技術講習。	3年生 10. 13：被服支廠へ通年学徒動員。ミシン作業、軍服の穴かがり、釦付け、反延、型置き、裁断など。昼休みに竹槍訓練、軍人勅諭の暗誦。	2年生 総合体錬場に芋植え。牛田山で松根油採取。府中町で麦刈り。南竹屋の学校農園で農作業。	1年生 農園作業：4・5・10・11・12月各1回 被服廠：8・9・10・12月各3日。専売局：10・1・2月各3日。待避壕用石拾い行軍：10・11月各1日。腐葉土・薪集め：5・1月各1回	
昭和20年	クラスは1, 2・・5組となる。5. 1から2部授業。7月：千田町の寮は川内村・八木へ移転（広島航空にも）。学校の貴重品は八木修練道場に、書籍は市外の生徒宅に疎開。学籍簿は校庭の防空壕に避難。		3. 19：広は大空襲。木造の寮焼け落ちる。以後爆撃頻繁。 3. 27：工場で宮本教頭より卒業証書授与。卒業後も挺身隊として継続動員。進学等で除隊あり。	3. 30： 4年で繰り上げ卒業。学校工場は川内村公会堂へ疎開。細々した荷物は12kmの距離を生徒が大八車で運ぶ。裁断台が運び込まれ特攻隊鉢巻製造も加わる。卒業後も進学・就職などを除き継続動員。	4年生 5. 1：東洋工業へ200人、広島航空へ50人動員替え。7月中旬：何人かの生徒は第二総軍司令部暗号班に加わるため、司令部で暗号の訓練、8月4日訓練終了。8・5-6：暗号班は任務前の特別休暇。	3年生 4月 広島印刷・広島航空へ各100名、川内村学校工場へ50名通年学徒動員。広島印刷(地図、教科書など)。広島航空(飛行機部品ジュラルミン板をヤスリで削る)。	2年生 川内村にて稲刈り。牛田山で腐葉土採取。 7. 17 広島航空60名、広島印刷・川内村学校工場へ各100名学徒動員。川内村では軍帽を縫う。	1年生 建物疎開片づけ：計3日。6. 3：路作業(砂運び)。6. 1：3吉島飛行場で作業。東練兵場開墾など農作業：計9日。7月救急看護を習う。7. 21：組替え、古市橋以北の生徒と寮生は川内国民学校へ。
8月6	第一県女は爆心地から600m。校舎は門柱4本を残して灰燼に帰し、奉安殿と講堂、有朋会館がその跡をとどめたにすぎない。校内にいた校長、職員、学校で看護実習中の4年生などが死亡。		夜勤の際、広島空が真っ赤に燃えているのが見えた。心配で翌朝無断で、宇品に行く軍人の車で比治山まで帰った生徒あり。後で叱られる。	卒業後も動員継続中の生徒は川内村学校工場(公会堂)内部で朝礼中、青白い閃光、爆風にあう。ガラスの破片で顔や腕に傷。川内国民学校の救護所で救護に携わる。戦後も工場の後片付けに通った生徒あり。	東洋工業は爆心地から5. 3km。爆音・爆風にあうが、死傷者はなし。夕方5時までは負傷者の救助に当たる。看護組の生徒は実習のため登校し被爆、死亡。	広島印刷:第二国民学校校庭(爆心地から2.4km)で朝礼中。爆風で吹飛ばされ、火傷・負傷あり。己斐の山に避難する途中黒い雨。広島印刷疎開工場で夜を明かす。広島航空:会社の広場で待機中。軽傷者あり。ハス畑などに逃げ黒い雨にあ	避難場所の山中で夜を明かす。川内村学校工場:朝礼中被爆。青白い閃光、轟音、爆風。窓ガラスによる負傷。迎えのあった生徒、可部線北部の生徒は帰宅を許された。6日以後近くの生徒は工場防護に通う。	学徒動員（建物疎開）初日。爆心地から800mの土橋付近で作業開始直後被爆。重傷の栗田教諭に励まされながら避難場所の己斐国民学校へ。翌日には全員が死亡。家に帰れた生徒も8月の内には全員が死亡。川内国民学校では1時間目の授業中。